

⑧ 速効、紫雲膏加甘草末軟膏

福岡県・滝井医院 瀧井宏隆

結 言：紫雲膏を演者は1978年 (S53) 年から漢方の外用薬として愛用している。

紫雲膏は1984年 (S59) に薬価基準に収載された。1985年 (S60) 漢方の研究会にて吉益東洞の『類聚方広義』『重校薬徴』を学んだ。

生薬、甘草の「急迫を主治す」にヒントを得て、紫雲膏加甘草末軟膏を考案した。

その症例報告は日本東洋医学会九州支部会にて1990年 (H2) と1991年 (H3) に行った。

製 法：軟膏板の上にもまず紫雲膏5gを乗せ、カンゾウ末1gを加え、ヘラで十分にねる。

応 用：①火傷、痔核、肛門裂傷

→ ソラチフェールの上に紫雲膏や太乙膏とぬると、刺激を与えない。

紫雲膏加
甘草末

- ②打撲傷、擦過傷
- ③虫刺症 (カ、アリ、ハチ、ムカデ等)
- ④皮下、筋肉注射後の局所の腫大
- ⑤静脈注射の漏れた場合 (ジギラノゲンC等)
- ⑥手足の肉刺 (マメ)

紫雲膏
のみ

- ⑦しもやけ
- ⑧術後の創傷 (搔痒感、ケロイド予防)
- ⑨口角炎、口唇の荒れ
- ⑩手掌角皮症、足裏の荒れ性
- ⑪たこ、魚の目
- ⑫疣贅
- ⑬褥瘡 → 抗生剤のアクロマイシンの上に紫雲膏をぬる。
(補中益気湯を併用)
- ⑭白斑
- ⑮髭剃り後
- ⑯臍垢 (臍のあか)

治療経過：急性の発赤、疼痛、腫大、充血、そして血腫を伴う疾患に紫雲膏加甘草末軟膏をガーゼに塗って局所に塗布する。

四診から証を決め、証に従って漢方薬を内服させると上記の臨床症状は約10分前後で消退させることができる。

総括：紫雲膏加甘草末軟膏は紫雲膏の「創傷治癒促進作用」と、甘草の「急迫を主治す」という点に注目して考案した。

今日まで多くの症例に使用したが副作用なく、いずれも速効を認めている。

紫雲膏加甘草末軟膏こそは各医療機関が、不時の事故に備えて常備すべき軟膏の一つである。

10) 顔面湿疹に対する

甘草加紫雲膏の臨床的有用性に関する一考察

福岡市・恵光会原病院 ○上田 豊成・原 敬二郎

序 論

名医華岡青州の考案した処方に紫雲膏がある。この紫雲膏は、外傷特に火傷、痔疾、赤切れ、あせもを始めとし、多岐にわたる皮膚疾患に使用されている。

今回、当院では、この紫雲膏に甘草を加えた甘草末入り紫雲膏(以下、甘草加紫雲膏とする)が有効であった症例を経験したので報告する。

調製方法

甘草加紫雲膏；甘草を細末とし、甘草末1に対して紫雲膏10の割合で混合し、よく攪拌して10%甘草入り紫雲膏を調製する。

【症例】 51歳 女性

主訴 顔面掻痒感及び熱感と発赤。

既往歴 28歳時帝王切開術後2回帝切あり、48歳鼠径ヘルニア根治術。

妊娠分娩歴 3回妊娠3回分娩(3回とも帝切)。

月経歴 50歳過ぎより不規則、過多月経(-)、月経痛(±)。

現病歴

平成12年2月下旬より、顔面の掻痒感ならびに熱感を伴う鮮紅色の湿疹が両側頬部に出現したため、近医皮膚科を受診し、ステロイド軟膏、ザーネクリームを処方され、約2ヵ月で湿疹はかなり改善した。そこで本人の自己判断により外用剤を中止したところ、再び同部に湿疹が再発増悪しメンソレータムを使用したところ、さらに悪化をきたしたため、当院受診す。

東洋医学的所見

実証

問診：便通1日1行軟便、排尿状態異常なし、睡眠及び食欲良好。

舌診：白苔(+)、軽度歯圧痕(±)、舌下静脈怒張(+)。

脈診：やや浮緊。

腹診：軽度両側胸脇苦満 (+)、両下腹部に瘀血を認める。

： 圧痛 (+)、反跳痛 (-)。

理学的所見

身長156 cm、体重58 kg、血圧122/62 mmHg。

眼瞼結膜：軽度貧血気味。眼球結膜：黄染 (-)。

心音、呼吸音：異常無し。

腹部：両下腹部圧痛のみ (++)。腸雑音正常

皮膚：顔面両側頬部に湿疹、掻痒感 (++)、発赤 (++)、熱感 (++)、蝶形紅斑 (-)。

検査所見

一般検尿：異常無し。

一般採血：WBC5200、WBC分画：異型リンパ球2%他正常値、やや核左方移動、RBC 371万、Hb 10.1、Ht 31.8、血小板17.2万。

一般生化学：肝腎機能、電解質、総蛋白、蛋白分画異常無し。

内分泌学的検査：LH 12.7、miu/ml ↑、FSH 30.8、miu/ml ↑

病態

#1 瘀血、#2 脾虚、#3 肝気鬱結。

臨床経過

上記所見と病態により

①ツムラ桂枝茯苓丸加薏苡仁 7.5g

紅花末 1g 分3

②紫雲膏 30g

2週間後、湿疹の熱感はやや改善するも掻痒感はおさまらずいつも顔を掻かずには、おられない状態であるため、甘草加紫雲膏に変方、2週間後、発赤 (-)、熱感 (-)、掻痒感 (-) となり湿疹は改善した。

考察

帝王切開や鼠径ヘルニア手術歴、外用ステロイド使用、舌下静脈怒張、両下腹部圧痛などにより、ベースとして全身的に瘀血が存在していたと思われる。

そこに外用ステロイドを急に中止したため局所的に顔面の瘀血の増悪が起こったと考えられる。ツムラ桂枝茯苓丸加薏苡仁+紅花末を使用することにより、瘀血改善の

準備状態になりつつあるも、痒みが強いいため頻回に掻いていたことが湿疹の増悪になっていたと思われる。そこで紫雲膏に甘草末を加えることにより、軟膏の伸びが良くなったことと、甘草の局所に対する抗炎症作用とが相乗して、作用効率が高まったため、湿疹の急速な改善が得られたと思われる。甘草は急迫を主治す（素問）と云われ、急性の炎症やその増悪にすぐれた効果があることは『薬徴』にも掲載されている。

結 語

- ①紫雲膏に甘草末を加えることにより伸びが良くなり、塗布による清涼感が向上した。
- ②甘草の清熱解毒作用は、外用薬甘草加紫雲膏においても有用性が認められた。